

患者の皆さまへ

当院では、保有する既存試料・情報を用いて下記の研究を実施しております。このような研究の実施に当たっては、研究対象者の方に研究の参加を拒否する権利が保障されております。(オプトアウト)

この研究に関するお問い合わせなどありましたら、下記の問い合わせ先までご連絡ください。

尚、研究又は他の研究機関への患者さんのデータ提供は、研究実施許可日から研究終了日の期間に行います。

記

研究機関名	市立豊中病院
研究実施許可日	2025年10月 6日
研究終了日	2026年 3月31日 まで
研究の名称	Acute Necrotizing Esophagitis Following a 44-Hour Refractory Food Bolus Impaction (Case report)
研究対象	食塊閉塞により、急性壊死性食道炎を発症した患者さん
対象材料	診療記録
対象期間	2024/12/17 ～ 2024/12/25
研究の目的意義	欧米では食塊嵌頓は成人の食道異物の頻度の多い原因の一つです。多くは好酸球性食道炎や悪性腫瘍等の食道疾患を有していますが、十分に咀嚼しないで大量の食物を摂取した場合は背景に食道疾患がなくても、食塊閉塞を発症することがあります。一方で急性壊死性食道炎(ANE)は1990年に胆嚢摘出術後に生じた黒色食道として初めて報告された疾患で、食道の粘膜壊死と黒色変化を特徴とし、頻度は0.013-0.28%とまれな病態です。原因は完全には解明されていませんが、虚血、粘膜防御機能の障害、胃酸曝露等が複合的に関与すると考えられており、今回食道に食塊嵌頓を発症し、除去遅延と反復的な内視鏡処置後にANEをきたしたまれな症例を経験したため、研究対象となりました。
方法	食塊閉塞により急性壊死性食道炎を発症した症例について精査を行い、文献的考察を加えます。
個人情報の取り扱い	個人情報は院内で取り扱い、匿名化等により院外には出しません。
問い合わせ先 (研究責任者)	市立豊中病院 消化器内科 藤井 祥史 TEL06-6843-0101